

平成29年度 高校生と市長のふれあいたーク記録票(村上中等教育学校)2学年

と き: 11月2日(木)14:15 ~ 15:57 会場: 村上中等教育学校アセンブリールーム

参加生徒: 64人(男43人 女21人) 学校職員 6人

市役所職員5人 市長 合計76名

※ふれあいたークで発言された内容を抜粋した記録してください。

学校名	NO	発言内容	答弁者	答弁内容
村上中等教育学校	1	市長が考える村上市の一番の強みとを感じるものは何ですか。	市長	伝統、歴史、そこに生きづく人の心、これが強みかなと思っています。地域を大切にしているという気持ちや感覚が強みかなと思います。今ある特産品である市産材などに対しても、非常に思い入れが強い方がいっぱいいらっしゃるの、それがあつ限りでは、我が村には不滅だなと思っています。
村上中等教育学校	2	先日、秋の祭典が行われ、このような伝統芸能を発表する場があるのはすごく良いことだと思うのですが、最近そのような祭典がなくなるとお聞きしました。そのような場がなくなってしまうと市民の皆さんの発表の場であつたり、私たちのような高校生の発表する場がなくなってしまうと思うのですが、別な発表の場を考えてほしいのですが、市長の考えをお聞きます。	市長	今回で第37回を迎える文化・秋の祭典は芸能・文化などで活躍する方々の発表の場であり、私たち村上市の誇りだと思っています。観覧する皆さんにおいても文化の薫り高いそういう時間を体験するというのは必要だと思うので、なくならないと思います。また、来年村上市が合併して10周年の冠事業の一つとして、一体感を醸成しようということで、それぞれの地域の伝統芸能を持ち寄って皆さんに観覧してもらうことも検討していますので、発表の場は残していかなければいけないと思っています。
村上中等教育学校	3	このふれあいたークに向けて事前調査をする際に、村上市のホームページを見て、市長さんのスケジュール表で台湾観光戦略とありましたが、どういう目的で行ってきたのですか。	市長	公務の都合により、台湾へは副市長に行ってもらいました。台湾で「JAPANフェア」が開催され、村上の食材や特産品のプレゼンテーションをしてきました。来年から、米の減反政策というものがなくなりますので、これからは農家そのものが自由競争の時代に入ります。そうしたときに米をいっぱい作れば、米価は下がりが、農家の所得が減る形となります。そうならないようにするためにも国内で流通させる米の量というのは、しっかりと稼げる仕組みにしながら、それ以外の米を海外へ輸出する仕組みを現在考えてやっています。
村上中等教育学校	4	私の叔父が市内で歯科医師として働いているのですが、今年になってから在宅医療を中心とした、歯科連携室を立ち上げました。私は村上市の総合戦略を見たときに子育てに関する支援はすごく多いと感じたのですが、老後における支援が足りないと感じました。市長の考えをお聞きます。	市長	極めて同感であります。どれもこれもやっていかなければならないものかと思っています。これから高齢課が進んでいく中で、しっかりとケアしていく仕組みが絶対に必要で、歯科衛生の地域連携室を立ち上げていただいた、歯科医師会の役員の方々とお話をさせていただきました。連携室の役割は口腔ケアが必要な患者に迅速かつ円滑に医療が提供されることを目的として設置されました。しかし、病院、介護施設等との連携体制の構築をより一層進めていかなければなりません。そのため市では、保健医療課、介護高齢課を中心に地域連携室の連携体制の構築のため適切なサポートをしていきたいと思っています。また高齢者の施策もきちんと考えていますので、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。
村上中等教育学校	5	人口増加や町の活気を作るためには、障害者福祉も大切だと思っています。その際に聴導犬や盲導犬などの補助犬の問題があります。2013年から民間企業の補助犬の同伴の受け入れ義務は常勤の雇用者が50人以上となっていますが、市のホームページを見たところ、補助犬の同伴の受け入れ義務は常勤の雇用者が56人以上となっていました。理由はありますか。	市長	ご指摘をいただきましてありがとうございます。誤りかどうか確認をして対応したいと考えています。障害者支援は大切だと思っています。障害者の方が社会に対して後ろ向きに生活するのではなく、しっかりと環境づくりが必要だと考えています。また定期的に通院をしなければならない方へ、私が市長就任してから通院にかかる経費的な支援をさせていただいています。ですので、社会全体でそれを受け止められるような環境づくりが大事だと思っていますので、市としましてもその部分はしっかりとやっていきたいと思っています。 ※56人以上は誤りであったのですぐにホームページを修正しました。
村上中等教育学校	6	自分は新発田市出身ですが、新聞等を見ているいろいろな地域で人口減とか税収の悪化などよく目にします。そこで提案ですが、1つの市で活動するより、新発田市や新潟市などと協力したら、新潟県全体として活性化していけるのではと思うんですけど、ほかの地域との連携について、何かお考えがありましたらお聞かせいただきたいと思っています。	市長	非常に良い指摘、良いポイントだと思います。平成の初めの頃に、ふるさと創生1億円ということで、地域全体が元気になってもらいたい、全国の市町村に1億円配分されました。その頃から隣り合う自治体が連携をしながら効率よく行政運営した方が良いのではという取り組みがスタートしたわけですね。今では、村上市は関川村、粟島浦村の事務の一部を事務委託を受けています。下越エリアで1つに合併すると政令指定都市である新潟市と連携しやすくなると思います。しかし、ただ一つ大きなハードルがあつて、先ほど言ったとおり、村上市の一番の強みは、歴史であり、伝統であり、文化でそこに生きづく心だといいましたが、行政区域の中でそういったハードルはあります。現在は道州制というような議論もされていますが、そういった時代が来るのかもしれませんが、今はできることから繋がついていき、効率の良い行政運営に努めていきたいと考えています。